

シグマ研究委員会
FP核データワーキンググループ会合議事録

日 時 昭和 55 年 1 月 11 日 13:30 - 17:00
場 所 東海研究所 核データセンター
出席者 五十嵐, 菊池, 中川, 松本(原研), 佐々木, 大竹(PNC),
松延(住友), 渡部(川重), 川合, 飯島(NAIG)
招待 : 中島, 水元(原研)

配布資料 1. Bologna 会議論文リスト
2. Bologna 会議論文より 4 篇(含, JNDC 提出分)

回覧資料 Bologna 会議入手 論文

議 事

1. 飯島氏より, 昨年 12 月 12 - 14 日の Bologna での "NEA Specialists' Meeting on Neutron Cross Section of Fission Product" 出席報告があった。共鳴パラメタセットから, 平均パラメタを導出する International Exercise の提案が, 近く NEA から配布される予定。
2. 核データ専門部会の来年度改組計画についての, 部会連絡会案の報告が飯島氏からあった。FP ワーキンググループは未だ作業がつづくので来年度も現組織で進む。核データ評価コードWG(仮称)が新設される予定であり, 重核WGの全員と, 軽中重核WGメンバーの約半分がこの新WGに加わる案である。FPWGとしては, 従来レベルスキーム評価をお願いしていた中嶋, 松本, 村田氏には, この新設WGに移って頂いて, 今後の相談にのって頂きたい旨, 飯島氏より説明があった。又, 本FPWGとしては来年度メンバーを近く確定したいこと, および川合氏にWGリーダーを交替することの確認の依頼があった。
3. 来年度の JENDL-2 FP ファイル作成の進め方について川合氏から概略

の説明があり、討議した。進め方の要点は次のようである。

- (1) 共鳴パラメータはBNL-325, 4-th ed. を用いること($Z \leq 60$)として、データをMTの形で入手する。熱中性子領域には、必要により bound level を含めることが必要。
- (2) ORELAデータ, その他の new $\sigma(n, r)$ データをNESTORに格納する。
- (3) 光学模型パラメータ, レベル密度パラメータを系統的に決定する。
Nd, Smの再評価手法を用いる。
- (4) 同位元素シリーズとしての評価を行う。対象は
Br, Kr, Rb, Sr, Y, Zr, Nb, Mo, Tc, Ru, Rh, Pd, Ag, Cd, In,
Sn, Sb, Te, I, Xe, Cs, Ba, La, Ce, Pr, Nd, Pm, Sm, Eu, Cd, Tb.
(アンダーラインは重要FFP領域)
進め方として, (Nd, Pm, Sm, Eu, Gd), (Zr, Mo), (Ru, Rh, Pd, Ag), 等のようにグルーピングして行う仕方が有力である。Xeを加えることにより, total, elastic, inelastic についても殆ど完全になる。或は又, capture の最重要核を見直すという進め方もある。とにかく, スタートすることであろう。
- (5) 積分テストを容易にくり返せるよう, 又, 望みの形に出力するよう改良する必要がある。

4. レポート作成について

34 FP評価, 積分テストシステム, 積分テスト結果, Nd, Sm 評価等について早い時期にレポートを作成して欲しい旨飯島委員より要望があった。

5. その他

- ENDF/B-5のFPファイル入手は手配してあるが未だ入っていない (中川)
- 評価データファイルの相互比較は, 国際協力のために重要なことであり, 常にやっておく必要がある。
- 来年度作業に必要な, 評価システム作成依頼をなるべく早く, 五十嵐, 中川氏に提出する。

次回予定 : 3月中旬 東京